

巻頭のことば 「大寒に思う」

1月21日は暦の上では大寒。正にこの日東京では今年一番の寒さを記録、以来氷点下に迫る寒い朝が続いております。こういう時こそ、仕事場、部屋のぬくもりへの有難さが身に染みて感じます。

私が小さい時、つまり1960年代初めですが、当時の暖房は基本的に石油ストーブ、それと風呂は薪と石炭でした。それが今や全て電気に依存しております。

としますと、発電、送電している電力会社の系統に何かが発生すると我々の生活の全てが麻痺してしまうということです。

最近起きている再生可能エネルギーの利用というのは、新たなエネルギー源を元に、可能な限り電力系統から自立した電力を活用しようという動きです。

ネットワークが繋がっているというのは有難いことですが、全てが繋がって何か一つのものや、一か所だけに依存しているというのは危険な面もあります。

地域も一つ一つ独立して強くなり、その上での繋がりを模索してゆく必要性があります。

自立した地域づくりとは、とりもなおさず、自立したエネルギー体制の確立から、とも言えるかもしれません。

ふすく なおき
未知倶楽部 賦勺 尚樹

目次

巻頭のことば	p02	大寒に思う
特集レポート	p03	太陽光発電と蓄電池
	p04	太陽光発電システム
	p08	蓄電池
特集アンケート	p12	道の駅エコステーション化計画に関するアンケート
お知らせ	p15	新規掲載の道の駅、等